

派遣先所属 宮城県東部土木事務所

氏 名 漆原 照大（うるしばら あきひろ）

派遣期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日

## 1 派遣業務の内容、現況

### （1）東部土木事務所の概要

派遣先の東部土木事務所の所管区域は、石巻市、東松島市、牡鹿郡女川町の2市1町で構成されており、面積及び人口はそれぞれ県全体の約1割を占めています。

管内の地形は、東側が太平洋に面してリアス式海岸が形成されており、南側は特別名勝松島に接しています。

事務所の組織は17班体制（職員数145名）となっており、災害復旧事業、復興事業とともに、通常事業として道路、公園の建設・管理、河川海岸等の整備・管理、建築確認等の業務を行っています。

東日本大震災（以下「大震災」といいます。）では、当事務所管内は沿岸部に位置することから大きな打撃を受けました。管内の女川町では最大津波高18.5mを記録したそうです。

### （2）所属班及び担当業務

経理班として主に工事・委託にかかる業務の契約、入札等の事務に携わっており、中でも入札業務を主たる業務としています。

入札業務の具体的な内容としては、入札公告文の作成や開札業務、落札候補者の資格審査といったものです。

現場に赴く機会は少ないですが、入札、契約業務を通して、間接的ではありますが、着々と復興が進んでいることを感じることができます。来年度で復興・創生期間が終わることから、発注業務にラストスパークがかかっている状況です。今後も入札業務を迅速かつ正確にこなし、少しでも早く宮城県の復興を完了させたいと思います。

### （3）他の自治体からの応援職員の状況について

今年度の応援職員は私を含め12名在籍しています。業務としては、用地取得業務や河川・海岸・砂防事業などを行っています。

応援職員だけで行う意見交換会や宿泊を伴う情報交換研修会もあり、様々な交流をすることができます。高い志をもった職員ばかりですので、非常に刺激を受けます。

## 2 被災地の復旧・復興の状況

当事務所管内の公共土木施設災害復旧事業は、全615箇所のうち、全箇所（100%）に着手し、575箇所（94%）で完了しています。また、金額ベースでは、全体事業費2,477億円に対して着手済みが2,158億円（約88%）、完了が1,726億円（約71%）となっています。

私の住居は石巻港に面しているということもあり、大震災当時も津波による大きな被害を受けたようですが、周りには新しい住居や復興住宅が建設され、被災したおかげはほとんどありません。一方で、近くには「被災した公園」という名前の公園があり、大震災の事実を風化させないために、当時の被災した状況をそのままにあえて残しているそうです。その他にも様々な場所で震災当初の写真や記録を閲覧する機会があり、震災の記憶、記録は後世に伝えていかなければならないという地元住民の使命を強く感じます。

## 3 被災地へ派遣となって感じたこと

宮城県に派遣となってよかったことは、人脈が広がったことです。プロパーの職員はもちろん、他の自治体の応援職員と意見交換ができる機会があることはとても貴重です。私は人見知りですが、半年が経過した現在では友人にも恵まれました。おかげで時には大変なときもありますが、共に乗り越える仲間がいるので頑張ることが出来ます。

宮城県への派遣で培った「防護・減災」の考え方は、埼玉県が被災した際にも大いに役立つものであります。また、被災地に派遣されたからには、私も宮城県民同様、大震災の記録を後世に伝承させていくことを肝に銘じ、残りの派遣期間、身を引き締めて復興業務に励んで参ります。



当事務所で参加した、孫兵衛船大会の様子

（令和元年10月作成）